発がん性試験結果の評価について(平成25年度・その1)

労働安全衛生法第57条の5の規定に基づき国が委託実施した発がん性試験の結果について、平成25年度には、「化学物質のリスク評価検討会」の「有害性評価小検討会」において2物質(N,N-ジメチルアセトアミド、4-tert-ブチルカテコール)について検討予定であり、このうち前者について次のとおり評価を行った。

- I N,Nージメチルアセトアミドのラット・マウスを用いた吸入による発がん性試験結果の評価
 - 〇平成25年5月2日開催の第1回有害性評価小検討会において評価を行った。
 - ON,Nージメチルアセトアミドは、<u>ラットの雄及びマウスの雌雄に対して発がん性が認められる</u>と評価された。一方、ラットの雌に対する発がん性は認められないと評価された。
 - ○また、N,Nージメチルアセトアミドの変異原性については、様々な試験が実施され、その結果が陽性のものと陰性のものとがあり、変異原性の有無は判断できないとされた。
 - ○なお、ラット雄、マウス雌雄のいずれにおいても、腫瘍の有意な発生増加が認められたのは最高用量のみであったが、N,Nージメチルアセトアミドは変異原性の有無が判断できないことから、安全側を考慮し、健康障害を防止するための指針(がん原性指針)の対象とすべきとされた。
 - Oさらに、N,Nージメチルアセトアミドについては、<u>経皮吸収を考慮した対策が必</u>要であるとされた。